

インフラに関する児童・生徒向け研究広報パネルの製作・展示

国土技術政策総合研究所 正会員 ○長屋 和宏、土肥 学、石川 浩
野口 一真、若井 裕

1. はじめに

国総研では、当所の研究および活動内容や存在意義を国民および技術者などに周知することで広い理解と深い共感を得るため、広報の対象別に目的と活動方針を明確にした上で、各種メディアを活用して効果的な手段により、組織全体で積極的な情報発信をしている。本活動の一つとして、国総研が行っている、児童・生徒向けのインフラに関する研究広報パネルの製作および展示について報告する。

2. 国総研広報計画アクションプラン

広報活動にあたっては、広報を行う対象（国民、研究者・技術者、地方公共団体などのインフラ管理者、他）別に目的と方針を明確にした広報計画と具体的な行動を定めたアクションプランを策定している。

国民に対する広報計画の目的は、「研究、技術支援(しえん)や災害支援の活動が、自分たちの生活や社会・経済活動に役立っており、国総研が社会を支える重要な存在であることを認識してもらう」と位置付け、その活動方針を「研究・技術情報や研究成果、国総研の活動内容を分かりやすく発信するとともに、実験設備公開や出前講座などを通じた交流の促進(そくしん)を図る」としている。また、アクションプランでは、記者発表、実験設備の公開、外部での研究発表などを重点として、国総研の研究・活動内容を「①知ってもらう、②見てもらう、③使ってもらう」という観点を意識することとしている。

3. 児童・生徒向けパネル

国総研では、研究発表としてポスターセッションへの参加や各種展示会において研究内容を発表するためのパネルを数多く製作しており、いつでも印刷ができるように大型（A0版）のプリンタを有している。しかしながら、これらのパネルの多くは専門家向けの内容となっており、専門用語や難解な単語が多く用いられている。これまで外部の展示会に参加する際は、印刷済みのパネルを流用する形で展示物を調整することがほとんどであったが、広報計画アクションプランの策定を通じて、「国総研は、国民の生活に関わる重要な研究を数多く行いながらも、その活動や成果はなかなか認識されていない」といった実状を再認識し、児童・生徒にも理解しやすく、かつ興味や関心を高める内容のパネル製作に取り組んだ。

平成28年度に製作したパネルの一覧を、表1に示す。パネル製作にあたっては、広く児童・生徒に関心を持ってもらう観点から国総研が研究に取り組んでいる各分野の担当者（研究部）と協力してテーマの選定を行ったが、東日本大震災以降の防災教育の取り組み、平成28年4月の熊本地震の発生、などの関係から関心が高いと考えられる防災分野が多くなっている。

表1 製作したパネル一覧

テーマの説明にあたっては、身近な話題を用いたクイズやたとえ話をふんだんに取り入れた。また、パネルには、多くのイラストや写真を用いるとともに文字サイズはA0版パネルで70ポイントを基本とし、まずは視覚的に目を引くことに注意した。

さらに、使用する単語も可能な限り

パネルタイトル	テーマの内容	分類
雨の見張り番	レーダー雨量計(XバンドMPLレーダ)	河川(防災)
空からも国土を見張っています	人工衛星に積んだSARIによる土砂災害検知技術	砂防(防災)
下水道のしくみ	下水道の役割と仕組み	下水
橋のしくみと橋の健康しんだん	橋の仕組みとメンテナンス	道路・橋
こわれた道路はどこだ？	地震による橋の損傷検知技術	道路・橋(防災)
地震を測る	インフラ設備(橋など)の地震観測	道路・橋(防災)
安全に学校に行くために	通学路の安全確保の取り組み	交通安全
みんなが使いやすい街を作る	街や住宅のユニバーサルデザイン	住宅
公園と防災	公園の機能と災害時の役割	公園(防災)
災害とは、防災とは	災害と防災の説明、災害にあう可能性の確率	防災
土木・災害と漢字	土木や災害にまつわる漢字の成り立ち	防災
平成28年(2016年)熊本地震	熊本地震における国総研の取り組み	防災

キーワード 広報計画, パネル展示, 児童・生徒

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 国土交通省国土技術政策総合研究所 TEL: 029-864-4090

平易となるように工夫をした。具体的には、パネル中で使用する漢字は、固有の名前などの場合(例：熊本)や通常の小学生の知識で読解できる場合(例：地震)を除き、小学6年生までに学校で学習する教育漢字のみとした。

パネルの製作は、多くのテーマで専門家向けの資料や論文を平易な表現にする形を取っているため、元の資料で教育漢字以外の漢字を用いた熟語や表現が多く使用されていたが、これらをそのまま平仮名表記としたり、漢字に読み仮名(ルビ)を付したりすることも特別な場合(文章の引用など)を除き行っていない。これは、平仮名表記とすることで文章自体が読みづらくなること、教育漢字以外の漢字を用いた熟語はその単語自体が難解であること、などに照らした上での対応である。

製作したパネルの例を図-1に示す。

このようにして製作したパネルは、駅や市役所などの公共の場で一定期間の特別展示や各種展示会への参加の形で、「街に飛び出した国総研」として広く展示を行っている。「街に飛び出した国総研」では、パネル内容に興味関心を持ってもらうことはもちろん「国総研」の名前が広く認識されることを期待し、「国総研？」と題した看板をかかげた展示を行っている(写真-1)。

なお、これらのパネルについては、国総研 HP (<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/kids/kids.html>) で公開するとともに、貸し出しも受け付けている。

4. まとめ

国総研では、児童・生徒向けパネルを用いた広報の他、生徒・児童に土木・インフラに関する技術を理解してもらう様々な機会を設けている。例えば、職員が学校などに直接出向き、小学生から社会人までの方々とコミュニケーションを取りながら研究内容を説明したり質問に答えたりする「出前講座」、小学生に「ものづくりを通じて私たちの生活を支える橋などの土木インフラの大切さを知ってもらう」ことを目的とした「ボール紙で作る橋コンテスト」、などを行っている。今後もこれらの活動を行い、児童・生徒にインフラに対する興味や関心を高めてもらい、一人でも多くの児童・生徒が我々の業界を目指してくれることを期待する。



図-1 製作したパネルの例



写真-1 パネル展示の様子